

令和元年度読書週間事業 いわき総合図書館 企画展

生誕二百年記念

安藤信正と その時代展



(安藤信正肖像)



いわき市立いわき総合図書館

いわき市平字田町 120 ラトブ 4・5 階

☎ 0246-22-5552

<https://library.city.iwaki.fukushima.jp/>

はじめに

今回の企画展では、磐城平藩の藩主として、また、江戸幕府の老中として、大きな働きをした安藤信正（1819～1871年）を取り上げます。

信正が生まれたのは今から200年前。そして、信正が生きたのは江戸時代の末から明治時代の初めという激動の時代でした。開国か、攘夷か、さらには、江戸幕府を守るのか、それとも倒すのかなど、人々の意見は大きく分かれ、対立が激化し、安政の大獄、桜田門外の変、ヘンリー・ヒュースケン殺害事件、東禅寺事件（第1次）、坂下門外の変、戊辰戦争などが起きました。

このような時代を、信正はどのように生きたのか？ 江戸幕府の屋台骨を担う老中として、また、磐城平藩を率いる主として、信正はどのように生きたのか？ 今回の企画展では、そこに迫りたいと考えています。

令和元（2019）年10月
いわき総合図書館長 夏井芳徳

江戸幕府の老中、安藤信正

少年の頃、信正は大いに勉学に励んだといわれています。磐城平藩の儒学者、神林復所（1795～1880年）などから教えを受け、わからないところや疑問に思うところがあると、納得がいくまで、繰り返し、質問をしたといわれています。

信正のことを調べていると、信正が極めて聰明な人物であることに気づかされます。その土台はこの時期に築かれたのだと思われます。

信正は数え年30歳で江戸幕府の奏者番になった後、寺社奉行、若年寄など、次々に幕府の要職に就き、数え年42歳の時に老中に就任しました。

激動の幕末、舵取りの難しい時代が信正という人物を必要としたのです。そして、信正は渾身の力で、それに応えたのです。

安藤信正の成長と躍進

西暦	年号	主な出来事			年齢
1819	文政 2年	11月 25日	江戸・蠣殻町(かきがらちょう)で誕生。幼名、欽之進。		1歳
1822	文政 5年	閏 1月 1日	欽之助に改名する。		4歳
1829	文政 12年	12月 28日	信睦(のぶゆき)と名乗る。		11歳
1835	天保 6年	12月 16日	従五位下、伊勢守になる。		17歳
1836	天保 7年	12月 12日	松平宗発の娘と結婚する。		18歳
1843	天保 14年	閏 9月 13日	長門守になる。		25歳
1845	弘化 2年	7月 7日	江戸を発ち、7月12日、磐城平に着く。		27歳
1846	弘化 3年	閏 5月 25日	磐城平を発ち、6月1日、江戸に着く。		28歳
1847	弘化 4年	6月 5日	父、信由死去。		29歳
		8月 2日	磐城平藩主になる。江戸城、雁之間詰め。		
1848	嘉永 元年	1月 23日	江戸幕府、奏者番になる。		30歳
1849	嘉永 2年	6月 27日	江戸を発ち、7月3日、磐城平に着く。		31歳
		10月	内郷綴村の鷹打山で狩りを行う。		
1850	嘉永 3年	2月 4日	磐城平を発ち、2月9日、江戸に着く。		32歳
1851	嘉永 4年	6月 9日	江戸幕府、寺社奉行見習になる。		33歳
		12月 21日	江戸幕府、寺社奉行になる。		
1853	嘉永 6年	6月 3日	ペリー来航。		35歳
1854	嘉永 7年	3月 3日	ペリー来航、日米和親条約締結。		36歳
1856	安政 3年	12月 1日	対馬守になる。		38歳
1857	安政 4年	10月 21日	タウンゼント・ハリス襲撃未遂事件。		39歳
1858	安政 5年	4月 23日	井伊直弼、江戸幕府、大老になる。		40歳
		6月 19日	日米修好通商条約調印。安政の大獄。		
		8月 2日	江戸幕府、若年寄になる。		
1859	安政 6年	7月 27日	ロシア海軍軍人殺害事件。		41歳
		10月 11日	フランス副領事付き従僕殺害事件。		
		10月 16日	長男、鱗之助(信民)誕生。		
1860	安政 7年	1月 7日	イギリス公使オールコック付き通訳殺害事件。		42歳
		1月 8日	フランス公使館放火事件。		
		1月 15日	江戸幕府、老中、外国御用となる。		

※年齢は数え年表記

※信正に関連する事項は赤文字で表記

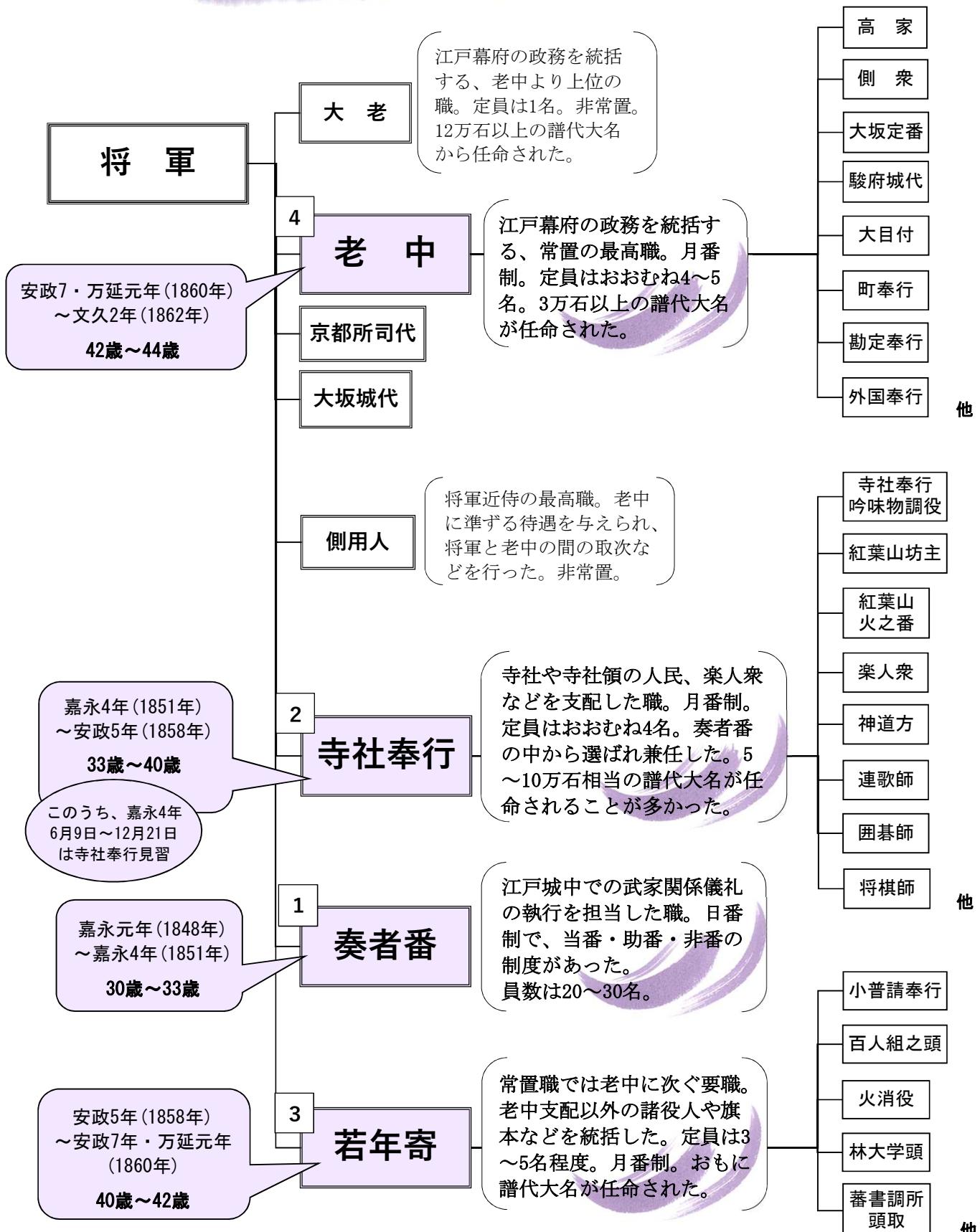
<参考資料>

『対外関係史総合年表』(吉川弘文館)

『新・国史大年表 第六巻』(国書刊行会)

『安藤対馬守信睦公』(磐城平藩主安藤家入部二五〇年記念事業実行委員会)

江戸幕府職制図



※ふきだし内は、安藤信正の在職期間と年齢(数え年)。

※口内の数字は安藤信正が務めた順番。

参考資料
『国史大辞典』(吉川弘文館)
『江戸幕府大事典』(吉川弘文館)

老中としての安藤信正

西暦	年号	主な出来事	年齢
1860	安政 7年 万延 元年	1月 18日 日米修好条約批准書交換のため、遣米使節出発。 2月 5日 オランダ人船長殺害事件。 3月 3日 桜田門外の変。江戸幕府大老、井伊直弼死去。 3月 17日 従四位下になる。 4月 8日 アメリカ公使ハリスと会う。 6月 13日 イギリス公使オールコックと会う。 6月 17日 ポルトガルと修好通商条約を調印。 8月 15日 前水戸藩主、徳川斉昭死去。 8月 27日 信睦を信行に改める。 12月 4日 ヘンリー・ヒュースケン殺害事件。 12月 14日 プロシアと修好通商条約を締結。	42歳
1861	万延 2年 文久 元年	2月 3日 ロシア軍艦ポサドニック号、対馬に入港。 3月 21日 幕府より外交の功に対して村替え(増収)。 5月 28日 第一次東禅寺事件。 7月 9日 ロシア軍艦についてオールコックと会談。 8月 15日 ロシア軍艦ポサドニック号、対馬を退去。 10月 13日 樺太国境交渉を命じる。 10月 20日 和宮降嫁。孝明天皇の妹、和宮、京都を出発。 11月 15日 和宮、江戸に到着。 11月 21日 岩倉具視らが安藤信正らに面会。 12月 11日 和宮、大奥に入る。 12月 4日 水野忠徳らが小笠原諸島開発に向かう。 12月 22日 開市開港延期交渉のため、遣欧使節派遣。	43歳
1862	文久 2年	1月 15日 坂下門外の変、受傷する。 2月 11日 和宮と14代将軍、徳川家茂が結婚。 2月 16日 第一次東禅寺事件和解。 3月 謂(忌み名)を信正とする。 4月 14日 老中を御役御免になる。	44歳

※年齢は数え年表記

※信正に関連する事項は赤文字で表記

＜参考資料＞

『対外関係史総合年表』(吉川弘文館)

『新・国史大年表 第六巻』(国書刊行会)

『安藤対馬守信睦公』(磐城平藩主安藤家入部二五〇年記念事業実行委員会)

桜田門外の変



「江水散花雪」(桜田門外の変図) 茨城県立図書館蔵

彦根藩の藩主、井伊直弼（1815～1860年）が江戸幕府の大老になつたのは、安政5（1858）年4月のことでした。直弼は開国や公武合体、紀州徳川家の徳川慶福（家茂）の将軍就任などを推し進め、その一方では、それらに反対する勢力に対し、力による封じ込め（「安政の大獄」）を行いました。

このようなか、安政7（1860）年3月3日、桜田門外の変が起きました。午前9時過ぎ、江戸城に登城する直弼の行列を水戸藩や薩摩藩の浪士たちが襲撃し、直弼は命を失いました。

坂下門外の変

※画像は著作権保護のため掲載していません。

「水府の浪士坂下に閻老を襲撃の図」(坂下門外の変図) 神奈川県立歴史博物館蔵
安政7(1860)年3月、桜田門外の変で井伊直弼が倒れた後、江戸幕府の屋台骨を担つたのは老中の職にあつた安藤信正たちでした。信正たちは直弼が行った強権政治「安政の大獄」は取り止めましたが、開国と公武合体などの施策は継続し、さらに推し進めました。

このようななか、信正たちが推し進める開国や公武合体に反対する者たちが、文久2(1862)年1月15日、江戸城坂下門外で信正を襲いました。襲撃者は6人でした。
この後、信正は老中の職を去ることになりました。

安藤信正と戊辰戦争

西暦	年号	主な出来事		年齢
1862	文久 2年	5月 29日	第二次東禅寺事件。	44歳
		8月 16日	隠居、謹慎。 鱗之助(信民)が家督を継ぎ、江戸城、雁之間詰めとなる。	
		8月 21日	生麦事件。	
		11月 20日	永蟄居。	
		12月 12日	イギリス公使館焼き打ち事件。	
1863	文久 3年	8月 10日	長子、鱗之助(信民)、死去。	45歳
		10月 2日	信勇(のぶたけ)(幼名、内藤理三郎)が磐城平藩主になる。	
1866	慶応 2年	11月 20日	謹慎を解かれる。	48歳
1868	慶応 4年	1月 3日	戊辰戦争(鳥羽・伏見の戦い)始まる。	50歳
		3月	鶴翁と名乗る。	
		3月 5日	江戸を発ち、3月10日、いわきに着く。	
		5月 3日	磐城平藩、奥羽越列藩同盟に加わる。	
		5月 15日	戊辰戦争、上野の戦い。	
		6月 1日	輪王寺宮(北白川宮能久親王)に700両を献金。	
		6月 16日	戊辰戦争、新政府軍、平潟上陸。	
		6月 17日	戊辰戦争、九面(勿来)の戦い。	
		6月 28日	戊辰戦争、泉城落城。	
		6月 29日	戊辰戦争、二ツ橋の戦い。湯長谷城落城。 中之作の戦い。第一次磐城平の戦い。	
		7月 1日	戊辰戦争、第二次磐城平の戦い。	
		7月 10日	戊辰戦争、七本松(鹿島)の戦い。	
		7月 13日	戊辰戦争、第三次磐城平の戦い。磐城平城落城。	
		7月 22日	戊辰戦争、末続、大久、広野の戦い。(26日まで)	
		9月 24日	戊辰戦争、磐城平藩が鶴翁の名で降伏状を提出。	
1869	明治 2年	9月 15日	永蟄居を解かれる。	51歳
1871	明治 4年	10月 8日	死去。法号は謙徳院殿秀誉松巖鶴翁大居士。	53歳

※年齢は数え年表記

※信正に関連する事項は赤文字で表記

参考資料

『対外関係史総合年表』(吉川弘文館)

『新・国史大年表 第六巻』(国書刊行会)

『安藤対馬守信睦公』(磐城平藩主安藤家入部二五〇年記念事業実行委員会)

上坂助太夫に宛てた安藤信正の書状

慶応4（1868）年7月22日から26日、広野宿などでの5日間の攻防戦の直後、安藤信正は、戦場で戦う磐城平藩の家老、上坂助太夫に次のような書状を送りました。

ながなが たいぎにぞんじそうろう さて このほどのいくさ はじめよろしくそうらえ ども つい やきはらい
長々出張、太儀存候。扱、此程之戦も 初 宜 候得共、終ニ敗北、木戸焼払、
とみおか そうろうおもむき はなはだ ひっきょう いきとどかず ならびに にげそうろうもの これあるゆえのこと
富岡迄引揚 候 趣、甚 残念。畢竟、手配り不行届、并、逃候者も有之故之事
このすがた て は そうろうのぎ は あいなりがたき ほとんど おりそうろう
ニ候。此姿ニ而者、中々押出し 候 義ニ者難相成ニ付、殆 心痛致し居 候。
これにより こころづきそうろうあいだ れんしょ て しかるべし ぞんじそうら
依之一策心付 候間、絵図、廉書ニ而申入候間、可然と存 候ハバ、軍議へ參
え もうしだんずべくそうろう もっとも かくのごとくもうしこしそうろうおもむきもうしきかせ
り、諸隊長江可 申談 候。尤、自分心配いたし、如 此 申越 候趣 申聞、絵
図、書面等差出候而も 不苦候。尤、夫々諸隊參謀など、如才ハ
これあるまじくそうらえども こころづきそうろうかど もうしこしそうろうむねもうしきかせそうろうてよろしくそうろう
有之間敷候得共、心痛之余り心付 候廉、隠居より申越 候旨 申聞 候而 宜 候。
は かくべつ の はたらきのおもむき そうらえども そ と か く に げ そうろうおもむき
一、米沢、陸軍隊者格別之働之 趣ニ候得共、仙、相等、兎角、逃ヶ 候 趣
はなはだとうわく この て に げ そうろうものこれありそううて は ひつり はかりがたくそうらえども
ニ付、甚 当惑。此手配りニ而も、逃ヶ 候者有之候而者、必利も難 斗 候得共、
に げ そうろうものこれなくそら て あいなるべし ぞんじそうろう
逃ヶ 候者無之候ハバ、必利ニ而、広野迄も押し候事ニ可相成と存 候。
うちだす また ず このほう いたさずそうろうては ととのい
一、先方より討出ヲ不待、此方より追撃不致候而者、いつも敵方用意 整、
ことゆえ ご て あいなりそうろうあいだ て もうしたきこと そのだん
押参り候事故、後手ニ相成 候間、明日ニも右之手続キニ而押出し申度事、其段、
よくよく だんじもうすべくそうろう
能々諸隊へ談 可 申 候。
一、平次郎、初太郎へ猶 申含置 候、時宜次第、此兩人、軍議所へ同道いた
し候而も 不苦候。

え
助太夫江

（『古文書が語る磐城の戊辰史』）

これを現代的な表現に改めると、次のようになります。

長期にわたる出陣、御苦労である。さて、今回の広野での戦いも、初めはよかったです、ついには負けとなり、木戸宿を焼き払い、富岡まで撤退をしたとのこと、とても残念だ。作戦通りにことが運ばず、また、逃げ出す者がいたことが大きな敗因である。このようなことでは、打って出るようなことは難しく、形勢は極めて厳しい。ところで、作戦を思いついたので、それを絵図に描き、また、箇条書きにまとめた書面も作成した。もし、「これはいい作戦だ」と思ったら、軍議にかけ、各隊の隊長にも説明をしてもらいたい。私が心配をし、このようなものを送り届けてきたことを伝え、絵図と書面を軍議の場に提出してもらってもかまわない。各部隊の参謀などの行いに不行き届きや手抜かりがあったというのではない、私が心配のあまり、このようなものを送り届けてきたと、そのように伝えて欲しい。

一、米沢藩や旧江戸幕府の陸軍隊は、格別の活躍を見せたというが、仙台藩と相馬藩の部隊は逃げてばかりいたとのこと、大いに困ったものだ。私が考えた作戦でも、味方が逃げてしまっては勝利することはできない。逃げずに戦えば、必ず勝利し、新政府軍に奪い取られた広野を取り返すこともできるはずだ。

一、新政府軍が攻めて来るのを待つのではなく、こちらから攻めなければならない。新政府軍はいつでも万全の用意をしたうえで、攻めて来るので、こちらは後手を踏んでしまうことになる。私の作戦に基づき、明日にでも打って出ようと、各隊の方々に訴えるべきだ。

一、平次郎と初太郎には、私が思いついた作戦の細かいところまで説明をしてある。場合によっては、この二人を軍議の場に同行させるのもよいだろう。

上坂助太夫へ

この書状の文面からは、この時の信正の心情、さらには、信正の人柄や性状などが、よく伝わってきます。

>>> 関連資料 <<<

- ◆『安藤侯史料集 卷1～5』 平市教育委員会//編 郷土史料双書刊行会 1963 (K-210.5-1-ア)
- ◆『安藤対馬守の生涯』 鈴木光四郎//著 磐城史談会出版部 1956 (K/289/アン)
- ◆『安藤対馬守と幕末 増補再販』 山本秋広//著 山本秋広 1971 (K/210.5-1 /ヤ)
- ◆『安藤対馬守信睦公』 いわき歴史文化研究会//編 磐城平藩主安藤家入部二五〇年記念事業実行委員会 2006 (K/210.5-1 /イ)
- ◆『安藤信正展』 いわき市立美術館//編 いわき市立美術館 2013 (DK/708/ア)
- ◆『安藤信正の時代』 いわき市//編 いわき市 1999 (K/726/イ)
- ◆『いわき市史 第2巻 近世』 いわき市史編さん委員会//編 いわき市 1975 (K/210.1-1/イ)
- ◆『いわき市史 第9巻 近世資料』 いわき市史編さん委員会//編 いわき市 1972 (K/210.1-1/イ)
- ◆『磐城平藩と安藤家展』 いわき歴史文化研究会//編 磐城平藩主安藤家入部二五〇年記念事業実行委員会 2006 (K/210.5-1 /イ)
- ◆『閻老安藤対馬守』復刻版 藤沢衛彦//著 白竜会竜が城美術館 1992 (K/289/アン)
- ◆『古文書が語る磐城の戊辰史』 いわき歴史文化研究会//編 平安会 2018 (K/210.6-1/イ)
- ◆『坂下門外の変』 斎藤伊知郎//著 築修堂出版 1982 (K/210.5-1/サ)
- ◆『大君の都 下』 オールコック//著 岩波書店 1978 (AL/210.5-2 /オ-3)
- ◆『大日本古文書 幕末外国関係文書之 38-52』 東京大学史料編纂所//編 東京大学 1980 (210.0/ダ)
- ◆『人づくり風土記 7 ふるさとの人と知恵 福島』 農山漁村文化協会 1990 (K/210.5-0/ヒ)
- ◆『プロイセン東アジア遠征と幕末外交』 福岡万里子//著 東京大学出版会 2013 (K/210.5-1/フ)
- ◆『幕末外交談 1』 田辺太一//著 平凡社 2004 (AL/210.5-0 /タ-1)
- ◆『幕末政治家』 福地源一郎//著 平凡社 2008 (K/210.5-0 /フ)
- ◆『水戸市史 中巻(五)』 水戸市史編さん委員会//編 水戸市役所 1990 (K/213.1/ミ-6)
- ◆『明治維新の敗者と勝者』 田中彰//著 日本放送出版協会 1980 (AL/210.6-1 /タ)
- ◆「大日本史料総合データベース」 東京大学史料編纂所 <https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/>



令和元(2019)年 10 月 29 日 発行

■編集・発行 いわき市立いわき総合図書館

企画展「安藤信正とその時代展」

■会期 令和元(2019)年 10 月 29 日(火)－令和 2(2020)年 5 月 24 日(日)

■会場 いわき総合図書館 5 階 企画展示コーナー